

## (5) 実践の考察

新中学校学習指導要領では、新しい時代に求められる資質・能力を生徒に身に付けさせるために、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、優れた教育実践に見られる普遍的な視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められています。

本研究委員会では、従来の授業を「主体的・対話的で深い学び」の視点から見直し、授業の質的改善に取り組んできました。そして、A校、B校のそれぞれの実践を通して、今回の学習指導要領で整理された三つの資質・能力「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」が身に付いたのかどうかを考察しました。

「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」については、平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申において提言された新しい評価の観点である「知識・技能」、「思考・判断・表現」での評価を試みました。ただし、検証授業は現行中学校学習指導要領で評価を行っているため、本研究委員会の試案として、新中学校学習指導要領の指導事項に置き換えて、ワークシートへの記述の分析を基に考察を行いました。

また、「学びに向かう力、人間性等」については、教科の目標に示された内容を踏まえて、国語の大切さを自覚し、自身の能力を向上させようとする意識や態度の高まりについて、実態調査アンケートを基に考察することにしました。

## ア A校 第1学年

## ●知識及び技能

A校の11月の実践では、現行中学校学習指導要領と新中学校学習指導要領を照らし合わせ、生徒に身に付けさせたい「知識及び技能」を以下のように捉えて考察しました。

現行中学校学習指導要領	新中学校学習指導要領
事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもっている。  【言語についての知識・理解・技能】	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。  【知識・技能】

1時目には、教科書巻末の心情を表す言葉について、語彙マップに整理しました。その時間の振り返りでは、「初めて知った心情を表す言葉があったので、使えるときには使ってみたいと思います」「全然意味を知らない言葉もあったので、意味が分かって良かったです」「心情を表す語彙が、こんなにたくさんあるとは思わなかった」など、知らない言葉が多かったことに触れている記述が多数見られました。しかし、7時間目に書いたリライト作品では、以下のように多くの心情を表す語句を使用しています（表1）。

表1 リライト作品の中で、生徒が使用した「心情を表す語句」一覧

場面	心情を表す語句
コムラサキを見せる	嫉妬、羨ましい、感嘆、遺憾、恨めしい、あきれ果てる、軽蔑、熱を上げる、妬ましい、いとおしい、得意、明鏡止水、感傷的、心をひく、むきになる、気落ち、興味深い、心が躍る、もどかしい
うわさ	心が躍る、感激、エキサイト、胸がいっぱい、血が騒ぐ、得意、胸を弾ませる
部屋への侵入	切ない、無念、ひがむ、憂鬱、熱をあげる、しょんぼり、いとおしい
僕の再訪	血がたぎる、妬ましい、あきれれる、がっかり、恨めしい、いらだつ、軽蔑、悲観、心細い、しょんぼり、あきれ果てる、うんざり、傷心、気落ち、落胆、沈鬱、感傷的、むきになる、途方に暮れる、無念
僕の弁償提案	不愉快、いらだつ、あきれ果てる、あきれれる、遺憾、うんざり、気落ち、悲哀、軽蔑、怒り
エーミールの態度	ドライ、うんざり、軽蔑、あきれ果てる、落胆
僕の帰宅後	静まり、軽蔑、ほっとしている、動揺

また、これらの語句をどのように用いているか、リライト作品を分析したところ、約91%の生徒が語句の意味を適切に捉えて使うことができていました。以下に、生徒の使用例を示します。

【 生徒の使用例 】

- ・特別なことなんて別になかった普通の日、歡喜は突然訪れた。
- ・僕は怒りで押しつぶされそうになる。
- ・僕は泣き叫びたいくらいの怒りをぐっと抑え、ヨハンを憎しみの目でじっと見つめた。
- ・僕は、クリストファーにあきれ果てた。
- ・彼が帰った。なぜかほっとしている自分がいた。

このように、心情を表す語句を適切に使うことができたのは、心情を表す語彙マップを作成したり、自分が選択した語句について他者からアドバイスをもらったり、語彙習得のための丁寧な指導が行われたからであり、本単元で目指す「知識及び技能」の習得につながったと考えます。

● 思考力、判断力、表現力等

3つの単元で検証授業を行いました。それぞれ指導事項が異なるため、同じ指導事項で比較することはできません。そこで、ジグソー法を取り入れた6月と11月の実践の中で、自分の考えを形成する学習過程について振り返りを行い、生徒の変容を考察したいと思います。

6月の実践では、説明文の段落の役割を捉える際に、まず自分の考えを記入させ、その後、ジグソー法を取り入れて理解を深めさせるようにしました。エキスパート活動では、その後のジグソー活動で説明するため、自分の考えと他者の考えを比較し、考えを見直すことができました。ただし、他者の考えに引きずられ、自分の考えを十分検討できない生徒が多く見られる状況でした。

11月の実践では、登場人物の心情についての考えをグループ内で交流し、それを基にリライト作品を書く活動を行いました。図1は、登場人物の心情についての考えを書いたワークシートです。まず、心情を読み取ることができる描写に線を引き(①)、心情を表す語句(②)とその場面に合う登場人物の言葉(③)を書きます。ワークシートはグループ内で読み合い、良いと思った言葉には赤いシール(④)を、変えた方が良いと思う言葉には青いシール(⑤)とアドバイスを書いた黄色の付箋(⑥)を貼るといった形で交流を行いました。

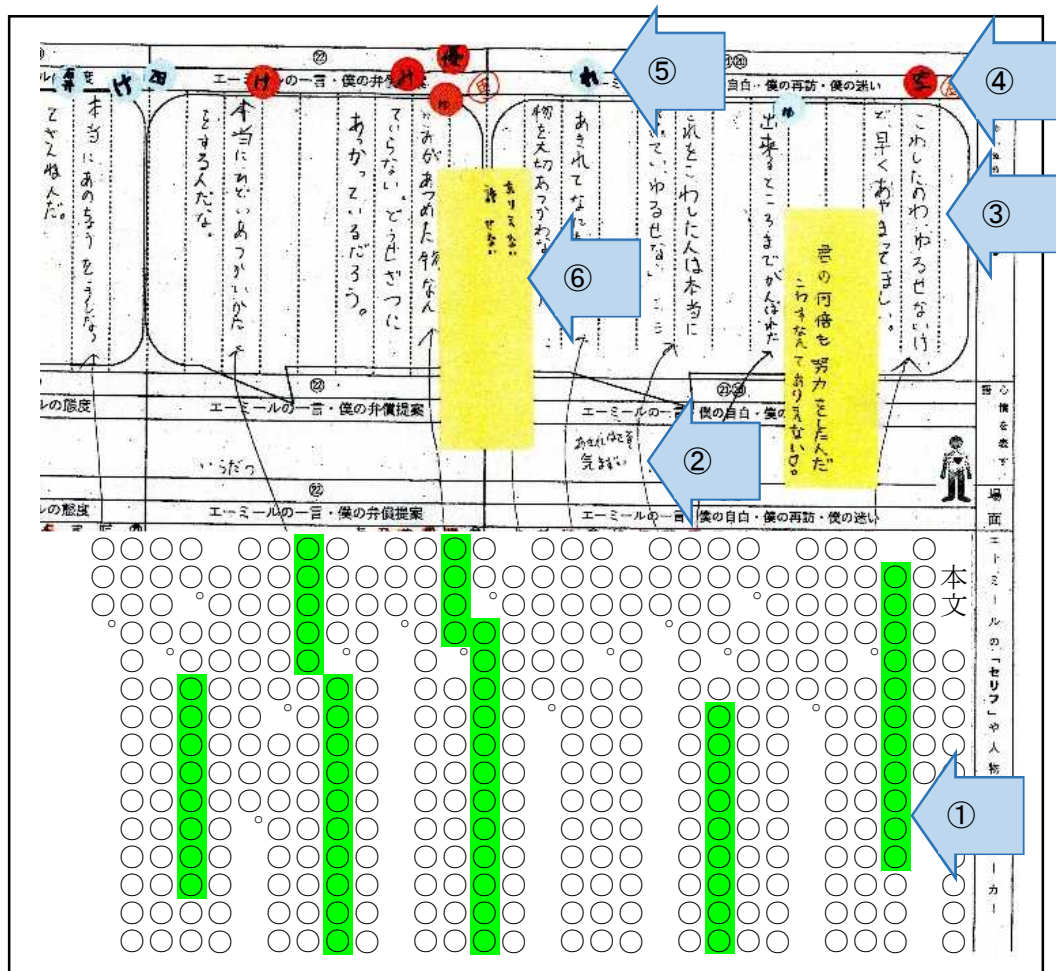


図1 交流後のワークシートの一部

その後を書いたリライト作品と交流後のワークシートを比較すると、他者からのアドバイスを取捨選択して作品を仕上げていることが分かる作品が幾つも見られました。例えば、生徒Aの場合、グループ内の交流で、友達から「君の何倍も努力をしたんだ こわすなんてありえない！」「ありえない 許せない」「あーも！！」「チクショー！」（原文ママ）という言葉を使ってはどうかというアドバイスを受けました。完成したリライト作品を見ると、アドバイスを受けた言葉の中から、「ありえない」という言葉を選び、作品に取り入れていました。また、生徒Bの場合、「どうしてそんなことをしたんだ！！」（原文ママ）という言葉を使ってはどうかというアドバイスを受けました。完成したリライト作品を見ると、「どうしてそんなことをしたのか理解できない」という言葉が使われており、アドバイスを聞いた言葉を基に自身で言葉を考え、作品の中で使用したと考えられます。そのほか、幾つかアドバイスの言葉をもらったものの、どの言葉も取り入れることなく、自身が考えた言葉を使ってリライト作品を仕上げた生徒も見られました。

このことから、6月以降の実践の中に、対話的な活動を取り入れる中で、自分の考えと他者の考えを比較し、吟味する力が少しずつ身に付いてきていると推察します。

●学びに向かう力、人間性等

右の図は、6月と11月に実施した「実態調査アンケート」の結果です。

項目1は、国語の大切さについての生徒の意識についての回答結果です。「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒が約12ポイント増加しており、国語の学習を通して、多くの生徒が国語の大切さを自覚するようになったことが分かります。

項目2は、課題解決に向かう生徒の態度についての回答結果です。「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒が約16ポイント増加しており、必要な情報を探して利用して、課題解決に向かおうとする態度が高まったことが分かります。

項目3は、話し合う活動に臨む生徒の態度についての回答結果です。回答結果に大きな変化は見られませんでした。85%以上の生徒が肯定的な回答をしており、望ましい状態にあると考えられます。

以上のことから、A校での実践を通して、「学びに向かう力、人間性等」を高めることができましたと考えます。

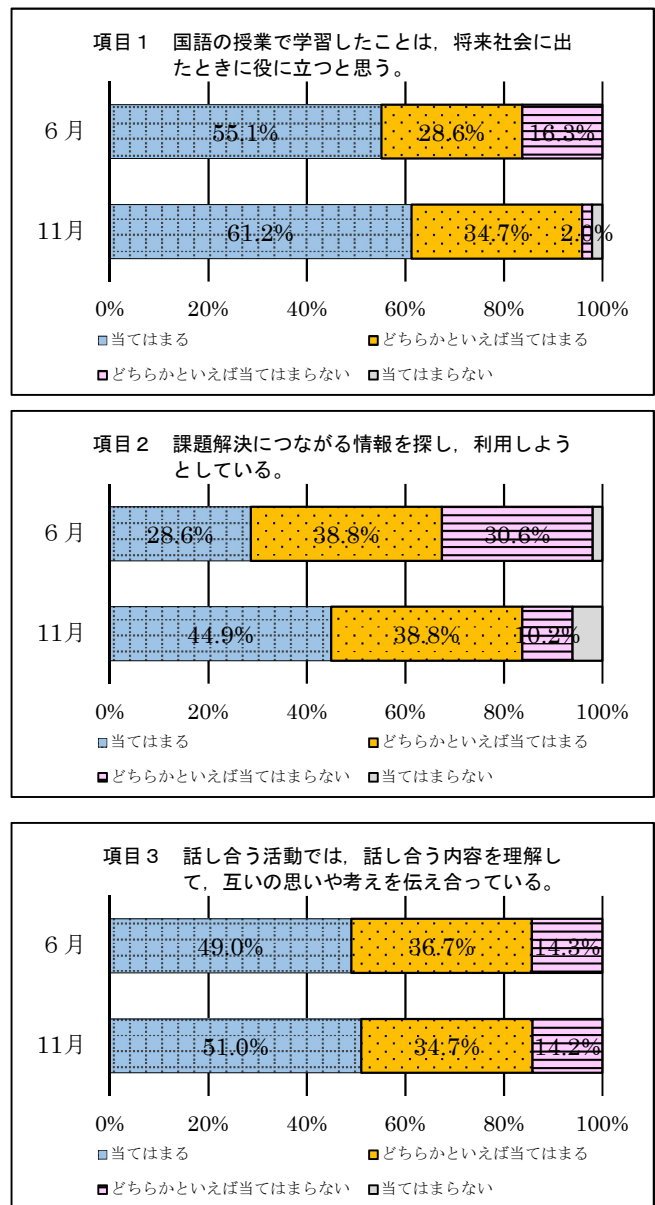


図2 A校の実態調査アンケート結果 (n=28)

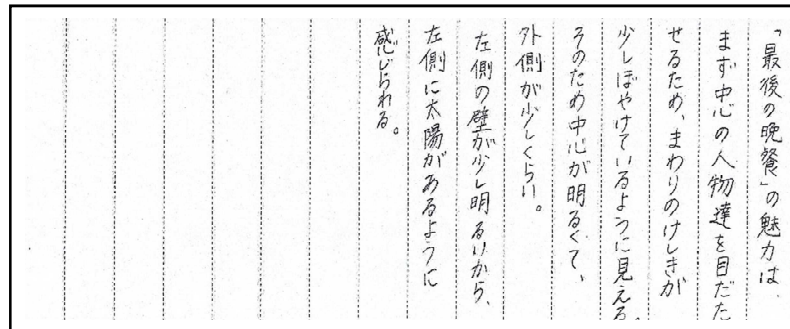
イ B校 第2学年

●知識及び技能

B校の11月の実践では、現行中学校学習指導要領と新中学校学習指導要領を照らし合わせ、生徒に身に付けさせたい「知識及び技能」を以下のように捉えて考察しました。

現行中学校学習指導要領	新中学校学習指導要領
相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解している。 【言語についての知識・理解・技能】	話や文章の構成や展開について理解を深めている。 【知識・技能】

1時目には、評論文とはどのようなものか説明した後、教材文を読まずに、レオナルド・ダ・ヴィンチ作「最後の晚餐」について、評論文を書く活動を行いました。生徒は、「最後の晚餐」について美術科で学習したことがあり、その手法についての知識はもっていました。そのため、「最後の晚餐」のどこがすばらしいのかについて書くことはできていましたが、評論文としての論の展開の仕方（観点や説明の順序）を意識して書いている生徒は24名中7名でした。



資料1 1時目に書いた評論文の例

その後、教師が作成したモデル文を提示したり、論の展開の仕方について意識させるワークシートを活用したりするなどの指導の工夫を行い、再度評論文を書かせました。5時目に生徒が書いた評論文では、24名中18名が、論の展開の仕方を意識して評論文を書くことができおり（資料2）、本単元で目指す「知識及び技能」の習得につながったと考えます。

お	と	バ	お	味	ら	こ	こ	目	ニ	一	そ	商	販	入	シ	生	だ	考
う	て	カ	店	の	れ	の	こ	だ	〇	九	う	品	の	れ	チ	ま	ら	ず
と	も	ケ	に	種	ら	こ	と	も	一	九	に	を	の	て	メ	た	う	の
い	カ	ー	並	類	に	こ	は	あ	六	五	食	作	右	持	一	じ	の	回
う	的	ジ	ぶ	バ	注	こ	は	り	年	年	ベ	ら	前	ち	九	ハ	は	り
負	的	は	と	よ	目	こ	は	推	の	の	て	開	加	考	五	ハ	リ	ハ
持	バ	一	と	て	し	こ	は	も	の	味	い	発	閉	け	年	ハ	ハ	リ
ち	バ	つ	と	色	つ	こ	は	か	と	と	る	者	し	る	ハ	ハ	ハ	リ
に	バ	も	マ	や	だ	こ	は	り	味	チ	の	の	の	子	ハ	ハ	ハ	リ
な	バ	な	カ	フ	う	こ	は	親	味	チ	味	友	の	を	ハ	ハ	ハ	リ
る	バ	く	カ	ル	う	こ	は	し	と	チ	の	人	の	見	ハ	ハ	ハ	リ
。	バ	、	カ	フ	う	こ	は	み	味	チ	味	の	の	て	ハ	ハ	ハ	リ
ま	バ	お	カ	フ	う	こ	は	や	味	チ	味	の	の	ハ	ハ	ハ	ハ	リ
た	バ	の	カ	フ	う	こ	は	す	味	チ	味	の	の	ハ	ハ	ハ	ハ	リ
ま	バ	バ	カ	フ	う	こ	は	く	味	チ	味	の	の	ハ	ハ	ハ	ハ	リ
く	バ	バ	カ	フ	う	こ	は	存	味	チ	味	の	の	ハ	ハ	ハ	ハ	リ
だ	バ	バ	カ	フ	う	こ	は	っ	味	チ	味	の	の	ハ	ハ	ハ	ハ	リ
け	バ	バ	カ	フ	う	こ	は	て	味	チ	味	の	の	ハ	ハ	ハ	ハ	リ
い	バ	バ	カ	フ	う	こ	は	い	味	チ	味	の	の	ハ	ハ	ハ	ハ	リ
っ	バ	バ	カ	フ	う	こ	は	る	味	チ	味	の	の	ハ	ハ	ハ	ハ	リ
じ	バ	バ	カ	フ	う	こ	は	る	味	チ	味	の	の	ハ	ハ	ハ	ハ	リ
バ	バ	バ	カ	フ	う	こ	は	る	味	チ	味	の	の	ハ	ハ	ハ	ハ	リ

資料2 5時目に書いた評論文の一部

●思考力、判断力、表現力等

B校で検証授業として取り組んだ3つの単元全てにおいて、共通する指導事項を指導しました。現行中学校学習指導要領と新中学校学習指導要領を照らし合わせ、生徒に身に付けさせたい「思考力、判断力、表現力等」を以下のように捉えて考察しました。

現行中学校学習指導要領	新中学校学習指導要領
事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くことができる。  <div style="text-align: right;">【書くこと】</div>	根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。  <div style="text-align: right;">【思考・判断・表現】</div>

6月の実践では、短歌に用いられている語句からイメージを広げ、ショートストーリーを書く活動に取り組みました。出来上がった生徒作品を、情景と心情を表す描写を工夫して書いている作品をA評価、情景もしくは心情描写を工夫して書いている作品をB評価、描写の工夫が見られない作品をC評価として評価しました（図3の6月）。

9月の実践では、心情が効果的に伝わるように、説明や具体例を加え、描写を工夫して随筆を書く活動に取り組みました。出来上がった生徒作品を、説明や具体例を加えて描写を工夫して書いている作品をA評価、説明や具体例は加えているが描写の工夫が見られない作品をB評価、説明や具体例から心情が伝わらない作品をC評価として評価しました（図3の9月）。

11月の実践では、自分の考えが効果的に伝わるように、根拠を明確にして評論文を書く活動に取り組みました。適切な根拠を挙げて書いている作品をA評価、根拠を挙げて書いているが、適切ではないものが含まれている作品をB評価、適切な根拠を挙げて書けていない作品をC評価として評価しました（図3の11月）。

6月から11月までの評価を比較してみると、徐々にA評価の生徒が増えてきており、3つの単元の中で指導した「思考力、判断力、表現力等」の力が高まったことがうかがえます。

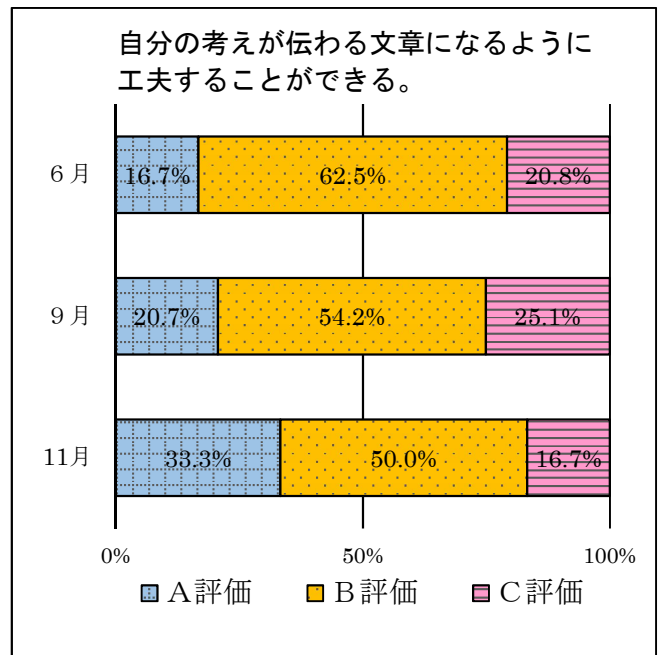


図3 「思考・判断・表現」の評価 (n=24)



●学びに向かう力、人間性等

図 4 は、6 月と 11 月に実施した「実態調査アンケート」の結果です。

項目 1 は、国語の大切さについての生徒の意識についての回答結果です。「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒がわずかに減少していますが、90%以上の生徒が国語の大切さを自覚しており、望ましい状態にあると考えられます。

項目 2 は、課題解決に向かう生徒の態度についての回答結果です。「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒が増加しており、必要な情報を探して利用して、課題解決に向かおうとする態度が高まっていることが分かります。

項目 3 は、話し合う活動に臨む生徒の態度についての回答結果です。「当てはまる」と回答した生徒が 42 ポイント増加しており、何について話し合うのかを理解した上で話し合いに臨もうとする態度が高まったことが分かります。

以上のことから、B校での実践を通して、「学びに向かう力、人間性等」を高めることができましたと考えます。

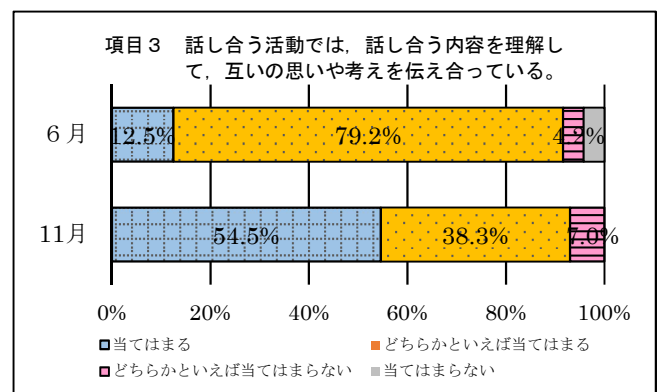
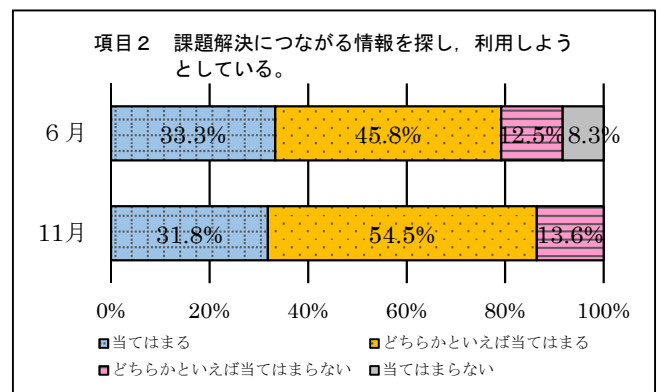
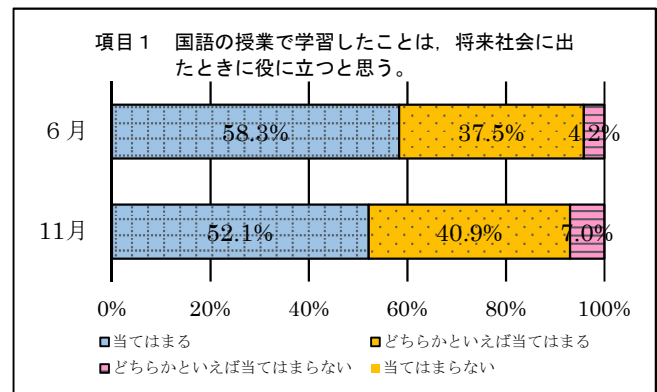


図 4 B校の実態調査アンケート結果 (n=24)